

こどもミュージアム2022

不思議の美術館のあぐ

~AGU v múzeum zázrakov~

<開催結果報告>

「こどもミュージアム」は、夏休み期間に子どもたちに美術館に親しんでもらうことを目的に、毎年テーマや講師をかえて実施している教育普及プログラムです。

2022年度のこどもミュージアムは、三岸節子が画業の初期に関心を寄せていたモチーフ「人形」にスポットを当て、愛知県在住のアーティストあぐさんの作品を手がかりに館内を巡りました。

【事業名】 こどもミュージアム 2022「不思議の美術館のあぐ」

【開催期間】 2022年7月16日(土)～10月10日(月祝) 87日間 (開館74日間)

【来場者数】 延べ約2,500人 (うち中学生以下約1,250人)

【内容・参加者数等】

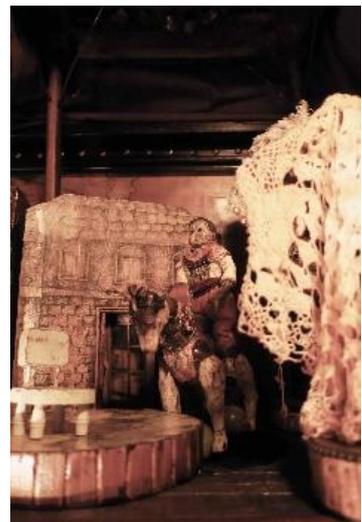
- ① なぞとき&スタンプラリー「お人形のひみつ」(会期中毎日) 約1,250人
- ② ペーパークラフト「人形劇がはじまるよ!」(会期中毎日) 約1,250人
- ③ ワークショップ「くるくるコマ人形を作ろう!」(8/7[日]午前) 12人
- ④ ワークショップ「マリオネットを作ろう!」(8/7[日]午後) 11人
- ⑤ ワークショップ「トランク劇場でお人形を動かしてみよう!」 34人
(7/24[日]午前) 14人、(7/24[日]午後) 20人
- ⑥ アーティスト・トーク「お人形のしかけを解説!」 84人
(9/25[日]午前) 28人、(9/25[日]午後) 25人、(10/10[月祝]午後) 33人

【アーティスト】

あぐ

愛知県在住。大垣女子短期大学デザイン美術科卒業。
ブラティスラヴァ美術アカデミー(スロヴァキア共和国)にてドウシャン・カーライ氏に版画制作を学ぶ。
国内外での展覧会多数。

人形・映像・版画・絵画等さまざまな技術を駆使した
独特な作品世界を作っている。



① なぞとき&スタンプラリー「お人形のひみつ」

あぐさんのお人形たちが出す「なぞ」に答えながら、美術館の中を巡り、節子さんやその作品について学んでもらうワークシートを用意しました。館内には、なぞときパネル4枚の他、66体の人形と6枚のイラストを展示しました。



② ペーパークラフト「人形劇がはじまるよ！」

あぐさんが美術を学んだスロヴァキアやお隣のチェコでは大人気の人形劇。紙を組み立てて劇場を作り、人形に糸や竹ひごをつけて、自分だけの人形劇を展開できるワークコーナーを設置しました。

お人形の中には、「節子さんが昔持っていたお人形」をイメージして、あぐさんが描いてくださったものも。



③ ワークショップ「くるくるコマ人形をつくろう！」

コマのように回転するお人形と、その舞台を作成しました。舞台にゲームの要素を盛り込んだりと、各自が工夫を凝らしました。木工が初めての子も、あぐさんに教わりながらがんばって最後まで完成させることができました。



④ ワークショップ「マリオネットをつくろう！」

チェコの人形劇に登場するような、本格的な木製のマリオネット作りに挑戦しました。どんなイメージのマリオネットにするか考えて、それに合わせて表情や髪形、衣装などを決めていきました。「動物にしたい」という子や「鼻の形を変えたい」と言う子、それぞれあぐさんと「どうやったら実現できるか」相談しながら進めていきました。最後に糸で吊り下げて動きを確認し、微調整を行いました。



⑤ ワークショップ「トランク劇場でお人形を動かしてみよう！」

どこでも人形劇ができる「トランク劇場」を舞台に、マリオネットを動かす体験をしました。

マリオネットは中心の針金、木の持ち手、糸とそれぞれに動くところが決まっ

ています。最初にあぐさんに動かしかたのレクチャーを受けてから、好きなマリオネットを選んで劇場に持って行き、動かしてみました。

だんだんコツをつかんで、ダンスするように動かせる子もいて、おうちの人に動画を撮ってもらおうと、まるでマリオネットが生きているかのようでした。



⑥ アーティスト・トーク「お人形のしかけを解説！」

あぐさんのお人形は、手袋になっていてパペットのように動かしたり、覗くと万華鏡になっていたり、箱の天地を返すとまったく違う舞台が現れたり、楽しい仕掛けがたくさん隠れています。

このトークでは、あぐさんと一緒に館内を周りながら、そんなお人形の仕掛けの数々を解き明かしていきました。思わず笑ってしまうような様々な仕掛けに、お客様もくぎ付けでした。



今年度のこどもミュージアムでは、子どもたちにも親しみのある「お人形」をキーワードに、アーティストのあぐさんのご協力のもと開催しました。

当館では今後も、この地方のアーティストの仕事を紹介しながら、子どもたちが楽しんでアートにふれることができる機会を提供していきたいと思います。

(学芸員 野田)